

開催概要

日時：2008年11月27日（木）13:00～14:30

会場：機械系 M4 棟 201 講義室

講師：山中俊治氏（リーディング・エッジ・デザイン代表、慶應義塾大学教授）

企画者：高畑一真（大阪大学大学院 工学研究科 機械工学専攻 博士前期課程2年）

参加者：学生39名 教員9名 計48名

講演内容

講演は山中先生の作品の紹介、2種類のプロトタイピング、山中先生のデザイン観、最新作の紹介と続き、最後として山中先生が優れたデザインを実践している企業およびその製品をご紹介いただいた。

講演題目ともなっているプロトタイピングには2種類あり、一つはその製品が世の中に出たときにどのような効果をもたらすかを検証するためのプロトタイピング、もう一つは未来へのビジョンを示すためのプロトタイピングであると述べられた。このことについて講演の中では前者についてはSuica自動改札システムを、後者については人をただ目で追いかけるロボットのCyclopsをご自身の作品の中の代表例として解説された。

山中先生自身のデザイン観についても触れられた。優れたモノづくりのためには、それを使う人間を理解しなければならず、そのアプローチとして科学だけでは不十分であり、芸術を導入する必要があることを指摘した上で、そのため自身の中では科学思考と芸術思考を明確に区別し、その間を行き来しながら両者の接点に優れたデザインが発見するのだと述べられた。

また、講演会終了後には山中先生を交えて懇親会を開き、デザイン教育や、ロボットデザインなどについての活発な議論が行われた。



熱心に聞き入る参加者



講演中の山中先生



懇親会の様子

実施後の感想・反省点

反省点は講演会当日、到着された講師の方への対応と会場設営（講演会、懇親会）で到底一人でこなすことのできないタスクが発生することを見落としていたことである。十分に段取りを組めていなかったために、開始直前にばたばたしながら研究室の学生に協力を求め、準備することになってしまった。事前に協力者を募って仕事を割りふっておくべきであった。

講演会自体は多くの学生、教員の皆様にご参加し、皆様の関心のある企画を提供できたのではないかと思います。終了後には参加していただいた方々からご好評の声を頂くことができました。私自身、講演会を企画するのは初めてのことで、しかも高名なデザイナーさんを講師に迎えての講演会ということもあり、不安もあったが、無事終えることができました。この講演会を企画したことで、貴重な経験を得ることができたのは私にとって非常に有意義であった。

謝辞

本講演会開催にあたり、高谷研究室の道畑正岐様には事前の準備から当日の運営にわたって大変お世話になりました。ここに深く御礼申し上げます。また、本企画をサポートしていただいた先生方、GP事務の皆様、研究室の学生をはじめ、ご協力いただいた方々に感謝いたします。